

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000308		
法人名	アサヒケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	京都府京都市西京区大枝中山町2-41		
自己評価作成日	平成26年1月17日	評価結果市町村受理日	平成26年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の個性、持っている力を大切に常にご利用者ご家族さんの思いに耳を傾け生き活きと暮らして頂けるように心掛けています。食事作り、買い物、食器洗い、洗濯物干しなど、出来る事をして頂く事で変わらない日常が長く送れるサポートをしています。地域行事にも積極的に参加させて頂き、個々の希望に合わせて外出も出来る関わりをしています。また、初詣、花見、など皆で外出もしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2674000308-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年2月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は今までの理念を振り返り、皆が共感し共有出来るものと考え話し合っって現状に即した理念を作成しています。生きる活きるを大切に、互いに支え合い共に過ごすという理念を掲げ入居者と共に一日一日が充実した日々となるよう様々な行事の企画をすると共にパッチワークの作品作り、来訪者の出迎え、食事作り等個々の持っている力を見出し役割や生き甲斐に繋げています。また、個人の介護記録をケアプランに沿って記録出来るフォーマットに変更し、利用者との関わりを多く持ち利用者の発言そのままを詳細に記載することにより、個々の思いを全職員に浸透させ本人本位のケアプランの作成に繋がっています。また、働き易い環境が整っており職員の定着率は高く利用者との馴染みの関係を築きながらチームワーク良く利用者の思いに沿った支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に理念を書き込み、スタッフ一人一人理念を常に意識できるようにしている。日々入居者と共に、その日その日を充実して暮らしている。	今までの理念を基に職員間で意見を出し合い現状に即したホーム独自の理念を作成しています。玄関に掲示し、新人研修で話しをしたり、社員証に掲載し常に携帯するなど職員に浸透するよう工夫しています。また会議の議題に挙げ、振り返りや確認を行いながら実践に活かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にはほぼ毎回参加し、地域の掃除にも利用者と共に参加している。回覧板も利用者に戻してもらっている。	自治会に加入し運営推進会議や社会福祉協議会から届く地域の活動計画表等で地域の情報を得ています。散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり焼き芋大会や、マジックショー、腹話術、地藏盆など地域のイベントに参加し敬老会やクリスマス会などホームの行事にも地域の方の参加を得て交流を図っています。また歌などのボランティアの訪問もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事に地域の人に参加してもらって交流を深めたり、地域の集まりに参加して、交流する事で認知症を地域の人に理解してもらう努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回、運営推進会議を開催し、地域の方、入居者、入居者家族、近隣グループホームに参加して頂き意見を出し合いより良いサービスの向上を目指している。	会議は自治会長や老人福祉委員、近隣のグループホーム職員、家族等の出席しやすい日を考慮しながら隔月に開催しています。ホームの状況等の報告の後、意見交換を行い参加者より多くの意見をもらっています。インフルエンザやノロウィルスなどのアドバイスを受け事業所での感染症予防に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録、レジメを持参し、ホームの空き状態を伝えて情報収集をしているが、情報は回ってこない。連絡調整会議に参加し、新しく出来たパンフレットを配り、空き情報を知ってもらっている。	運営推進会議議事録を持参したり、生活保護制度等で分からないことがある場合は出向いて直接聞いたり、電話等で相談するようにしています。また行政主催の研修や連絡調整会議等に参加し関わりが持てるよう心がけています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、常に職員間で話し合い、ベッドも低床にして、頻回に見回りしている。玄関は夜間のみ、施錠している。門は、国道に面している事から、安全の為に施錠している。	午前、午後の申し送り時や職員会議で身体拘束を行わないケアについて常に話し合い周知に努めています。また拘束に繋がる言葉かけ等についても管理者が頻繁に話しています。門扉は施錠していますが玄関は開錠し、出たい様子が見られたら近隣のコンビニへ一緒に出かけ買い物をするなど閉塞感のない支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、学びとり、ホームでの会議で伝え、全員が共有出来る様に努力している。また、最近の入居者は虐待から守る為の入居である。		

グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しい入居者が成年後見制度を利用されているので、実践でも学び、活字でしか知らなかったことが、身近で活用できる機会が来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、読み合わせをして、疑問点がないかの確認をし、解約時にもしっかり納得して頂くまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開き、家族に意見、要望、困り事を聞いている。来られない方には、来所時、電話等で要望をお聞きして、反映している。	家族の意見や要望は面会時やホームでのイベント時に聞いています。また、頻繁に家族に電話をするなど意見を言い易い工夫をしています。玄関から上履きのまま外に出られる利用者や階段のゴミなどの汚れが気になるという意見を受け、下足用の履物を用意したり掃除の回数を増やすなど受けた意見は検討し改善に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長会議や、ホームでの一斉会議を月に一回開催して職員の意見の発言を行っている。また、管理者は常に聞く姿勢で職員の意見を聞いている。	職員は日々の業務の中でも活発に意見や提案を出しています。提案されたことは会議において職員間で検討し実施に繋がっています。洗面台の設置やトイレの入り口を車いす用に三枚戸にするなど内容によっては法人本部に挙げ速やかに改善されています。また年2回の個人面談は要望や相談が出来る機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して個々の頑張り把握している。外部研修への参加も積極的に進め、職員の学ぶ機会を設けている。また、忘年会等社員が交流し合えるばを設けやりがいやチーム意識が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通して、職員にあった研修を外部に求めたり、内部での研修を率先してするように、ホーム長会議でも指揮を高めたり、統括部長にて内部研修を実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームでのイベントに近隣グループホームの職員、利用者に来所頂き、運営推進会議にも参加させて頂き、良い面をホームに持ち帰り実践している。また、餅つきなどのイベントにも招待頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネージャーや施設の相談員から以前の生活状況の情報を聞いたり、本人や家族からの聞き取りによりセンター方式を作成し本人理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接時、契約時、電話等で不安や困っている事がないように耳を傾けて真摯な態度で関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面談し、お話を伺い相談し、度ごとに話し合うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力を使って頂けるように、傍で見守り感謝の気持ちと共に任せきりにしない事で協力関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には、家族さんもお呼びして一緒に食事をしてもらい、普段の姿をみてもらい共有できる環境づくりをしようと努力している。また、日々においても家族の話題を上げて会話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのお住まいの近くの散髪屋にお連れしたり、家が気になるとの訴えに対して、一緒に片付けに行ったり、	友人や親せきの方の来訪があり、利用者と一緒に写真を撮ったり、話を聞く時間を設け次回も来てもらえるよう声を掛けています。住んでいた自宅の掃除に行ったり、以前よく行っていた祇園祭などにも同行しています。また、家族の協力を得て馴染みの美容院に行ったり職員が付き添って行きつけの床屋へ出かけるなど希望に応じて馴染みの関係が継続するよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごして頂く時の座席も定期的に変えて、出来る出来ないが自然とわかり、支え合える声かけができるようになってきた。また、一緒にする、料理、片付けも職員が間に入り、円滑に運べる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやりとりから、近況報告を知ることができる。電話等で知らせて頂く事もあり、相談をうければ必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からや以前のケアマネに聞いたことを元に一人一人の思いを知ろうと努力している。その時々により変わっていく思いにも柔軟に対応出来るようにしている。	入居前に本人や家族、ケアマネジャーからこれまでの生活歴や好み、出来ること出来ないこと等を聞き意向の把握に繋げています。日々の会話等から得た情報、利用者の言葉や表情等気づいたことをそのまま漏らさず気づきノートに記載し職員間で検討し共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの暮らしぶりを聞き、これまでの生活が継続出来るように努めている。また、会話の中から馴染みのくらしからた、好きなものなど探る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人について、職員間で共有出来るように、一日二回の申し送り時に日常の情報、変化を知らせあって、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを開き、本人の情報、家族からの話や希望、医師、看護師からの助言を元に皆で話し合い、今を知ることでの介護計画を作成している。	利用者・家族の意向や利用者の言葉や状況等を詳細に記載した気づきノートを基にカンファレンスを行い介護計画を作成しています。担当職員が3ヶ月に1回モニタリングを行いカンファレンスで話し合い計画作成担当者がまとめて計画の見直しに繋げています。必要に応じて事前に聞いた医師や看護師の意見を反映させています。介護記録簿に計画のサービス内容を記載し、担当職員が計画の実施状況を日々確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今までの介護記録は時系列で内容に職員との関わりを記録に残せない事が多かったため、記録用紙の形態の変更をする事によって、時系列ではない、利用者本人の言葉を書き出すことで思いや、訴え、気付、が見えてくるようになっていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の変化に常に敏感に感じ取り、何が必要か、何を求められているのかを、常に感じ取れるようにアンテナを張って、柔軟に対応出来るようにしている。		

グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事にも積極的に参加し、子供達とも触れ合い、地域の方々との交流し、日々の生活を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の主治医往診が2週間に1回あり、家族さんの希望で他病院の往診を受けている方も一人いる。また、提携病院にない科受診の際には、紹介状で他病院に行く。	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝え、殆ど利用者がホームの協力医に変更しています。協力医は2週間に1度の往診があり、継続されているかかりつけ医に個別で往診を受けている利用者もあります。専門医への受診は主に職員が同行し医師と直接連携を図っており、家族へは書面や電話にて報告を行っています。協力病院は24時間連絡可能となっており、緊急時は協力病院へ連絡し救急搬送をすることもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師に個々の体調変化を克明に伝え看護師からの指示にしたがっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時の主治医の指示に従うのはもとより、他の医療機関に入院した場合も既往症を素早く伝え病状が少しでも早く良くなる様に伝達する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化に伴い日々の様子を家族に伝える事により、家族の思いも受け入れ、ホームからの意向もしっかり伝え、共に相談している。また、事前指定所を用い、予め本人、家族の意向を把握するようにしている。	入居時に看取り指針について説明を行っています。職員間で話し合いを重ね医師の往診や看護師の出動日を増やしたり、家族に泊まってもらうなど協力を得ながら吸痰や点滴を行い看取り支援を行った経緯があります。職員間で振り返りを行い今後の看取りの支援に繋げています。また職員には近隣のグループホーム職員から経験上の助言を受ける機会を設け、不安の軽減に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が来所し救命講習を受けたり急変時にはナースの指示の元に職員同士でスキルを高めあっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回避難訓練をしている。夜間想定、地震想定もしてみた。地域の避難訓練のも利用者と共に参加している。	訓練は年に2回実施し1度は消防の立会いの下夜間想定で初期消火、通報、避難誘導等を行い夜間担当者を変更しながら繰り返し行っています。課題があれば次回の訓練時に解決するようにしています。運営推進会議で案内、報告をしており地域の方にも声を掛けています。地域の防災訓練には利用者と一緒に参加しています。	運営推進会議で案内をしたり地域の方に声掛けをされていますが、今後も繰り返し声を掛け少しずつ参加を得て協力体制を築いていかれてはかがいでしょうか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレに誘導時にも耳元でトイレに行きますか？と誘い、失禁時にもさり気ない言葉かけにて、トイレに誘導するように努力している。居室訪室時にも本人の許可を得て訪室している。	職員は排泄時の声掛けや言葉遣い、名前の呼び方等慣れ合いになっていないか日々留意しています。不適切な言動が見られた場合はその都度注意を促しています。気になる利用者には同性介助にも配慮しています。今後接遇マナーについて研修会を行う予定です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事作りの手伝いや、音楽を聞く楽しみ、好きな歌手のCDを取り寄せたり、自宅に帰る時の手伝いや、行きたい場所等の介助をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間を午前、午後と時間をとり本人の希望を優先している。声掛けを午前、午後とする事で、気が変わって入りたいと思われたりする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に行けるように支援している。家人が連れて行ってくれる時もある。洋服も家人が購入し持参される時もあるが、希望に応じ、一緒に選ぶ時、希望を聞いて職員が選び購入する時、臨機応変に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を常に会話したり、イベント時に好きなものを一緒に作ったり、毎食一緒に後片付けをしている。クリスマスプレゼントで、お食事券をプレゼントして、個別で食べたい物を食べに行ける関わりをしている。	献立はチラシを見たり、利用者の好みを聞きながら立てています。食材は配達をしてもらい、朝食用のパンなど足りないものは利用者と一緒に買い物に出かけています。野菜の下ごしらえや洗い物など出来ることに携わってもらい、職員も同じ食卓で見守りながら一緒に食事を摂っています。正月や雛まつり、七夕など暦の上での行事食にも配慮し、バイキングや出前、外食、手作りおやつなども楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取表を個々に付けて量を把握している。職員が回りもちで献立を立てる際にも、野菜中心のメニューになるように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、夕食後に口腔ケアをし、歯科往診で必要な人のみ、口腔ケアを二週間に一回して頂いている。		

グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成して、個人ごとの排泄パターンを理解し随時誘導している。また、パットの大小も皆で検討しその時に必要なパットを使って頂けるような支援をしている。	日中は全員トイレでの排泄を基本としており、必要な方のみ排泄表を作成し個々のリズムに応じた声掛けや誘導を行っています。パットの大きさや吸収具合などを検討しその人に合ったものを使用してもらうよう工夫しています。紙パンツ使用の方が布パンツに変更することにより皮膚の状態が改善するなど快適に過ごせるよう自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取表を作ってその人に必要な水分を摂って頂ける様に皆で管理し、献立表の皆で回して作成しており、野菜が沢山摂取できるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前から午後まで入れる時間を長く持ち、入れる時に希望を聞いて入浴して頂けるよう支援している。体調の悪そうな時はこちらから様子を見て延期するときはある。	入浴は2日に1回を目安に10時から15時過ぎまでの間で希望を聞きながら支援しています。希望があれば毎日の入浴も可能で、柚子などの季節湯や入浴剤などを使用し楽しんでもらっています。好みの石鹸等あれば持ち込むことも可能です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の生活状態を観察した上で入床の声掛けをしている。日中でも様子を観察した中で、横になって頂く声掛けをしたり、ソファで横になってもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	研修で個人の薬について効用、副作用について調べた事があり、常に意識している。また、往診時の薬を薬剤師が持ってきた時にも、薬のプラス面マイナス面を聞き飲み方等の指導も受ける。が新しく入った職員にも新たな研修の必要あり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を家族から聞くと共に、本人から会話の中で聞き出したり、好きな音楽を常に聞いて頂いたり、好きなおやつを三時に提供したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を十分に考慮して、またその人の行ける範囲、歩ける距離を考えて、行ける場所に付き添って行っている。また、地域の行事にも積極的に参加している。	定期的な買い物やスーパーへの買い物以外にも地域の行事に参加したり、初詣や桜の花見、紅葉狩りなど季節毎の外出行事や美空ひばり館や水族館、温泉など希望に応じて個別の支援にも取り組んでいます。また、クリスマスに食事券をプレゼントし職員とマンツーマンで好きな物を食べに行くこともあり、多彩な外出行事を企画しています。	

グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば一緒に買い物に行き、食べたいもの、いるもの等の購入をしている。小銭程度は所持している人もいたが、預かってほしいとの要望があり、全額預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話をしたり、手紙を差出しに行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節感を取り入れた壁面飾りを利用者と共に作り、飾りつけたりしている。玄関先の庭にパラソルと椅子を置き、外気に触れるくつろげる空間作りをしている。	リビングには利用者と一緒に作った季節毎の作品を飾ったり、視界を少なくし落ち着いて過ごせるようリビングの一角にコーナーを作ったり、随所にソファを置き思い思いの場所で過ごせるよう配慮しています。畳部屋の共用空間は様々な種類のソファを置きゆったりと過ごせるよう工夫しています。掃除は毎日行い清潔保持に努め、温湿度や換気にも配慮し快適に過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや本棚で間仕切りにして空間を設け、一人で座れる場所を作ったり、3~4人で過ごせるテーブルスペースも設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前よりの好みの家具、日用品を持参頂き、必要に応じて家族と相談して購入頂いたりしている。以前のお住いの家に一緒にとりに行くこともある。	ダンスやテーブル、カーペット、ソファ、テレビ等を持ち込み利用者や家族と相談しながら配置しています。また、家族の写真や花、人形、自身の作品などを飾ったり、見やすい時計やラジカセ等を置き、安心して過ごせるよう配慮しています。希望があれば布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所には表示を明確にしわかりやすくしている。リハビリをかねて一日一回体操をしている。階段が使われるときには声掛けや見守りをするように心がけている。		